

# 昭和61年度 電源立地地域温排水対策事業

## ヒラメ海面養殖試験

### (要 約)

福田 慎作・田村 真通

東通村白糠・小田野沢両地区における電源関係温排水を漁業振興を図る上で有効に利用する可能性について検討するための基礎資料を得る目的で東通村あわび中間育成施設を利用して実施した。その詳細については「昭和61年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書」(昭和62年3月、青森県)で報告した。

1. 昭和61年8月7日から10月13日までの68日間にわたり、全長30mmの種苗を111mmまで中間育成した。
2. 飼育水温は17.2～21.7℃、平均19.6℃であった。
3. 餌は配合飼料を用いた。
4. 試験開始時は2,264尾を収容し、取り揚げは1,430尾で生残率は63.2%であった。
5. 取り揚げたヒラメのうち1,000尾を東通村あわび中間育成施設前沖に標識放流した(標識: 白色アンカータグ、記号「01」)
6. 以上の試験結果を踏まえ、これまでの知見も含めてヒラメ養殖の可能性を考えたが、本県では冬場の水温環境が悪く、養殖には不利な面をもっていることを再確認した。そして、冬場に無償あるいはそれに近い温海水が得られれば採算に合ったヒラメ養殖の可能性も考えられた。